

四半期報告書

(第11期第2四半期)

自 平成23年7月1日

至 平成23年9月30日

シダックス株式会社

(E05265)

表 紙

第一部 企業情報	
第1 企業の概況	
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2
第2 事業の状況	
1 事業等のリスク	3
2 経営上の重要な契約等	3
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	3
第3 提出会社の状況	
1 株式等の状況	
(1) 株式の総数等	7
(2) 新株予約権等の状況	7
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	7
(4) ライツプランの内容	7
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	7
(6) 大株主の状況	8
(7) 議決権の状況	8
2 役員の状況	9
第4 経理の状況	10
1 四半期連結財務諸表	
(1) 四半期連結貸借対照表	11
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	13
四半期連結損益計算書	13
四半期連結包括利益計算書	14
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	15
2 その他	20
第二部 提出会社の保証会社等の情報	21

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年11月11日
【四半期会計期間】	第11期第2四半期（自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日）
【会社名】	シダックス株式会社
【英訳名】	SHiDAX CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 志太 勤一
【本店の所在の場所】	東京都調布市調布ヶ丘三丁目6番地3

（上記は登記上の本店所在地であり、実際の本社業務は下記の場所で行っております。）

【電話番号】	03（5784）8881（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 経理財務本部長 兼 IR担当 西川 聰
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区神南一丁目12番13号
【電話番号】	03（5784）8881（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 経理財務本部長 兼 IR担当 西川 聰
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第10期 第2四半期 連結累計期間	第11期 第2四半期 連結累計期間	第10期
会計期間	自平成22年4月1日 至平成22年9月30日	自平成23年4月1日 至平成23年9月30日	自平成22年4月1日 至平成23年3月31日
売上高（百万円）	97,568	92,998	195,098
経常利益又は経常損失（△） （百万円）	△196	1,601	4,059
四半期純利益又は四半期（当期） 純損失（△）（百万円）	△1,885	220	△672
四半期包括利益又は包括利益 （百万円）	△2,000	195	△958
純資産額（百万円）	19,744	19,934	20,786
総資産額（百万円）	101,804	97,371	97,935
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期（当期）純損失 金額（△）（円）	△47.74	5.73	△17.16
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（％）	19.3	20.4	21.1
営業活動による キャッシュ・フロー（百万円）	2,818	4,858	8,918
投資活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△819	△1,157	△978
財務活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△7,024	△849	△12,863
現金及び現金同等物の四半期末 （期末）残高（百万円）	8,258	11,181	8,338

回次	第10期 第2四半期 連結会計期間	第11期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成22年7月1日 至平成22年9月30日	自平成23年7月1日 至平成23年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 （円）	2.70	20.43

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 第10期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」（企業会計基準第25号 平成22年6月30日）を適用し、遡及処理しております。
- 4 第10期第2四半期連結累計期間及び第10期の潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、1株当たり四半期（当期）純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 5 第11期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興へ向けた政策やサプライチェーンの復旧などにより、輸出や生産に係る経済活動に回復の兆しがみられたものの、原子力発電所事故に伴う電力不足及び放射能拡散の影響、欧州の金融不安を背景に長期化する円高や株価の低迷、デフレ経済の進行により先行き不透明な状況が続いております。また、個人消費におきましても、震災及び原子力発電所事故の影響による消費の自粛、厳しい雇用環境や所得低迷の長期化により、生活防衛意識や節約志向が高まるなど、企業を取巻く環境は厳しく推移しております。このような市場環境のもと、当社グループは、“フードサービスから公共サービスまで提供可能な水平垂直統合型の企業構造”で他社との差別化を図り、高品質・高付加価値のサービスを提供するとともに、より一層の「安心・安全」な管理体制の強化、グループ総合力を活かした営業拡大に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の連結売上高は92,998百万円（前年同四半期比4.7%減）となりました。利益面につきましては、営業利益は2,161百万円（前年同四半期比1,026.3%増）となり、経常利益は1,601百万円（前年同四半期は196百万円の経常損失）、四半期純利益は220百万円（前年同四半期は1,885百万円の四半期純損失）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① エスロジックス事業

当社グループのスケールメリットを最大限に活かし、安全性・信頼性の高い商品を徹底した衛生管理体制で一括発注・配送を展開してまいりました。また、一元物流システムをより合理的に活用できるよう、標準メニュー導入の促進、調達コストの削減、幹線物流再編による物流コストの見直しなどに努めるとともに、同業他社とのアライアンスによる共同購買機構によって、スケールメリットを最大限に活用し、収益性の向上にも努めてまいりました。さらに、健康効果が期待される食事メニューの開発、トレーサビリティ、アレルギー関連など、付加価値の向上にも努め「安心・安全」な食材の供給を行ってまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の内部売上高を含めた売上高は23,097百万円（前年同四半期比15.9%減）、セグメント利益は2,187百万円（前年同四半期比1.9%減）となりました。

② コントラクトフードサービス事業

大手同業他社との競争激化に加え、各企業の生産調整・人員配置の見直しなどによる雇用環境の悪化によって、経営環境は大変厳しい状況にあります。このような環境のもと、「美味なる、減塩フェア」などのイベント展開、一元物流システムの導入強化、コスト管理の徹底、食材メーカーの集約によるスケールメリットの追求、赤字店舗の運営改善強化、既存店舗の解約防止などによって収益性の向上を目指してまいりました。また、多様化するお客様のニーズを的確に捉え、車両運行管理サービスや社会サービスを含んだ総合的なソリューション提案を既存店舗で行い収益向上を目指すとともに、新規案件とも連動して開発を強化し、事業拡大に努めてまいりました。さらに、福島県相馬市と避難所、仮設住宅への食事提供システム「シダックス・そうま方式」を共同開発、車内に厨房設備を完備したキッチンカーを企画・設計し、相馬市に寄贈するなど、震災支援活動にも積極的に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は15,425百万円（前年同四半期比5.8%減）、セグメント利益は919百万円（前年同四半期比4.9%増）となりました。

③メディカルフードサービス事業

経済情勢により病院などの経営環境が厳しい状況の中、同業他社との競争は厳しさを増す状況が続いております。このような環境のもと、「美味なる、減塩フェア」などのイベント展開、一元物流システムの導入強化、コスト管理の徹底、食材メーカーの集約によるスケールメリットの追求、赤字店舗の運営改善強化、既存店舗の解約防止などによって収益性の向上に努めてまいりました。また、高品質なサービスの提供を行うとともに、セントラルキッチンを活用した「やわらかマザーフード食」など独自色の強い商品の提供を行い、お客様満足度の向上に努めてまいりました。さらに、トータルアウトソーシングを意識した新規クライアントの営業開発にも努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は18,671百万円（前年同四半期比1.8%減）、セグメント利益は681百万円（前年同四半期比40.1%増）となりました。

④レストランカラオケ事業

震災の影響による宴会・イベントの自粛、厳しい雇用環境や所得低迷の長期化により、生活防衛意識、節約志向が高まり、お客様のレジャーに対する意識も一段と冷え込み、低価格競争が厳しくなっており「巣ごもり消費」などの言葉に象徴されるような厳しい個人消費環境となりました。このような環境のもと、春・夏メニューの推進、「ゆったりランチ」の強化・推進、ゴールデンウィーク期間売上10%相当額を義捐金として寄付する「元気に歌って、支援に参加しよう！」キャンペーン（寄付総額：119百万円）、2011サマーキャンペーン「シダックスの夏」などのイベント展開、水曜日女性ケータイ会員限定2時間無料（1オーダー制）の「レディースデー」、木曜日男性ケータイ会員限定2時間無料（1オーダー制）の「メンズデー」、時間帯別にご利用されるお客様にお得なバック「おトクなバックシリーズ」、女性会員様だけの特別企画「女子会PACK」の推進、2時間スイーツ食べ放題「スイーツパーティーコース」を開始、携帯ゲーム機で遊べる「ゲームパック」の提供、マスメディア連動企画の取り組み、「USTREAMルーム」の提供等、様々な集客施策を行い、販売促進を強化するとともに、全店舗の照明をLED化し節電を実施、コスト管理を徹底し、収益性の向上に努めてまいりました。また、iPhoneアプリ「レストランカラオケ・シダックス」にケータイ会員証機能を追加、ケータイサイト「シダックスクラブモビーバ」もスマートフォン向けのページを全面リニューアルするなど、ケータイ会員を拡大し集客を図るとともに、ターゲットを明確にしたOne to Oneマーケティングによる個々の顧客へのアプローチを確立し、マーケティングの精度・効果の向上に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は23,161百万円（前年同四半期比0.2%減）、セグメント利益は684百万円（前年同四半期は1,540百万円のセグメント損失）となりました。

⑤スペシャリティーレストラン事業

米国における状況は、失業率が高止まりし、米国の債務問題等により株価、個人消費動向が、先行き不透明な状況にあります。このような環境のもと、季節メニューイベントの実施等により売上増加に努めるとともに、不採算店の撤退、既存店の材料費及び労務費の徹底管理による収益性の向上に努めてまいりました。

国内における状況は、震災の影響による外食・イベントの自粛、厳しい雇用環境や所得低迷の長期化による生活防衛意識、節約志向の個人消費傾向により、外食離れ、低価格サービスへのニーズの高まりなど、競合との競争が激化し、事業を取り巻く環境は厳しさを増しております。このような環境のもと、復興支援メニュー、夏メニューフェアの推進やイベント企画の強化、インターネットによるサービスプランの実施により、集客力アップを図るとともに、コスト管理の徹底を行い収益性の向上に努めてまいりました。また、お客様の多種多様なニーズにお応えするためのメニュー開発及び接客サービスの向上に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は8,674百万円（前年同四半期比2.7%減）、セグメント損失は338百万円（前年同四半期は383百万円のセグメント損失）となりました。

⑥コンビニエンス中食事業

同業他社、大手コンビニエンスストアとの病院内出店の競争激化や、経営状況の厳しい病院、学校、工場の縮小、閉鎖などにより、厳しい経営環境が続いております。このような環境のもと、新規店舗を21店舗出店、POSを効果的に活用し品切れ防止対策を図るなど、積極的、効率的な売り場展開を行い、店舗内外の営業強化に努めてまいりました。飲料・アイス・沖縄フェアなどの催事・イベントや紙オムツなどの衛生商品の販売促進に努めるとともに、赤字店舗の改善を行ってまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は6,997百万円（前年同四半期比12.9%増）、セグメント利益は195百万円（前年同四半期比6.6%減）となりました。

⑦ トータルアウトソーシング事業

公共サービス分野では、地方自治体予算の削減や行財政改革推進の遅れ、また、民間サービス分野では、各企業の震災の影響による自粛感に、欧州における金融不安が重なり、コスト意識のさらなる高まり、同業他社との競争激化などにより、厳しい経営環境が続いております。このような環境のもと、車両運行管理業務においては、お客様のニーズに応じた車両運行管理の提案を行い既存取引先の管理営業強化に努めるとともに、民間法人取引の拡大に努めてまいりました。社会サービス業務においては、愛知県半田市、山口県周南市において学校給食センター業務を受託、青森県青森市、栃木県宇都宮市において図書館業務を受託する他、民間法人において一括アウトソーシングを新たに受託するなど、グループ総合力を活かした営業活動により、シェア拡大と収益向上に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は17,964百万円（前年同四半期比0.8%減）、セグメント利益は899百万円（前年同四半期比13.5%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ563百万円減少し97,371百万円（前連結会計年度末比0.6%減）となりました。流動資産においては、2,850百万円増加し31,549百万円となりました。これは主に、現金及び預金が2,842百万円増加したことによります。固定資産においては、3,414百万円減少し65,822百万円となりました。これは主に、有形固定資産が3,275百万円減少したことによります。

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ287百万円増加し77,437百万円（前連結会計年度末比0.4%増）となりました。流動負債においては、1,034百万円増加し42,183百万円となりました。これは主に、1年内返済予定の長期借入金が953百万円増加したことによります。固定負債においては、746百万円減少し35,254百万円となりました。これは主に、社債が1,562百万円増加した一方、その他に含まれているリース債務が1,625百万円及び長期借入金762百万円減少したことによります。

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ851百万円減少し19,934百万円（前連結会計年度末比4.1%減）となりました。これは主に、四半期当期純利益220百万円の計上があった一方、剰余金の配当583百万円により利益剰余金が339百万円減少したことに加え、取締役会決議による自己株式取得により自己株式が466百万円増加したことによります。

この結果、当第2四半期連結会計期間末における自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ0.7ポイント低下し20.4%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ2,842百万円増加し11,181百万円（前連結会計年度末比34.1%増）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、4,858百万円の資金増加（前年同四半期は2,818百万円の資金増加）となりました。これは主に、法人税等の支払額が689百万円あった一方、税金等調整前四半期純利益が1,439百万円、減価償却費が3,787百万円及びのれん償却額及び負のれん償却額が428百万円あったことによります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、1,157百万円の資金減少（前年同四半期は819百万円の資金減少）となりました。これは主に、有形固定資産の売却による収入が253百万円あった一方、有形固定資産の取得による支出が437百万円、無形固定資産の取得による支出が533百万円及び敷金及び保証金の差入による支出が476百万円あったことによります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、849百万円の資金減少（前年同四半期は7,024百万円の資金減少）となりました。これは主に、社債の発行による収入が1,954百万円あった一方、リース債務の返済による支出が1,877百万円、配当金の支払額が581百万円及び自己株式の取得による支出が466百万円あったことによります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

特記すべき事項はありません。

(6) 主要な設備

主要な設備の新設、休止、大規模改修、除却、売却等について、当第2四半期連結累計期間に著しい変更があったものは、次のとおりであります。

(新設)

シダックス・コミュニティー(株)

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定年月		完成後 増加席数
			総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
関東地区 新宿セントラルロード クラブ (東京都新宿区)	レストランカラオ ケ事業	レストランカ ラオケ店舗	524	150	借入金等	平成23年9月	平成23年11月	約475

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 投資額には、リース資産、敷金及び保証金、投資その他（建設協力金等）を含んでおります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	140,000,000
計	140,000,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年11月11日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商 品取引業協会名	内容
普通株式	40,918,762	40,918,762	大阪証券取引所 JASDAQ(スタンダード)	単元株式数100株
計	40,918,762	40,918,762	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総数 残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減 額(百万円)	資本準備金残高 (百万円)
平成23年7月1日～ 平成23年9月30日	—	40,918,762	—	10,781	—	10,186

(6) 【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数の割 合 (%)
志太ホールディングス㈱	東京都渋谷区神南一丁目12番13号	14,216,774	34.74
志太 勤一	東京都渋谷区	2,045,856	4.99
志太 勤	東京都調布市	2,003,332	4.89
㈱シダ・セーフティ・サービス	東京都調布市調布ヶ丘三丁目6番地3	1,377,800	3.36
志太 正次郎	東京都渋谷区	604,926	1.47
志太 富路	東京都調布市	380,984	0.93
㈱SBI証券	東京都港区六本木一丁目6番1号	273,600	0.66
シダックス社員持株会	東京都渋谷区神南一丁目12番13号 渋谷シダックスビルレジ	261,200	0.63
シダックスフードサービス取引先持株会	東京都渋谷区神南一丁目12番13号 渋谷シダックスビルレジ	231,600	0.56
第一生命保険㈱	東京都千代田区有楽町一丁目13番1号	160,200	0.39
計	—	21,556,272	52.68

(注) 上記の他、当社保有の自己株式3,519,505株(8.60%)があります。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,519,500	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 37,372,200	373,722	—
単元未満株式	普通株式 27,062	—	—
発行済株式総数	40,918,762	—	—
総株主の議決権	—	373,722	—

② 【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式 数(株)	他人名義所有株式 数(株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数の割 合 (%)
(自己保有株式) シダックス㈱	東京都調布市調布ヶ丘 三丁目6番地3	3,519,500	—	3,519,500	8.60
計	—	3,519,500	—	3,519,500	8.60

(注) 株主名簿上は、当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が800株(議決権8個)あります。なお、当該株式数は、上記①「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄に含めております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,570	11,413
受取手形及び売掛金	12,462	13,105
商品及び製品	1,400	1,483
原材料及び貯蔵品	1,119	1,190
その他	5,180	4,391
貸倒引当金	△35	△35
流動資産合計	28,698	31,549
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	20,800	19,604
その他（純額）	12,686	10,607
有形固定資産合計	33,487	30,211
無形固定資産		
のれん	10,997	10,567
その他	1,956	2,191
無形固定資産合計	12,954	12,758
投資その他の資産		
敷金及び保証金	10,491	10,628
その他	13,180	13,536
貸倒引当金	△877	△1,312
投資その他の資産合計	22,795	22,851
固定資産合計	69,236	65,822
資産合計	97,935	97,371

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,314	8,686
短期借入金	236	403
1年内返済予定の長期借入金	13,511	14,464
1年内償還予定の社債	300	475
未払法人税等	500	506
ポイント引当金	330	314
役員賞与引当金	59	50
賞与引当金	2,115	2,050
株主優待引当金	179	128
その他	15,601	15,102
流動負債合計	41,148	42,183
固定負債		
社債	50	1,612
長期借入金	26,686	25,923
役員退職慰労引当金	556	537
資産除去債務	3,034	3,081
その他	5,672	4,099
固定負債合計	36,000	35,254
負債合計	77,149	77,437
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,781	10,781
資本剰余金	3,277	3,277
利益剰余金	8,618	8,278
自己株式	△664	△1,130
株主資本合計	22,012	21,206
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	58	41
為替換算調整勘定	△1,392	△1,403
その他の包括利益累計額合計	△1,334	△1,362
少数株主持分	107	90
純資産合計	20,786	19,934
負債純資産合計	97,935	97,371

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
売上高	97,568	92,998
売上原価	87,463	80,642
売上総利益	10,105	12,355
販売費及び一般管理費	* 9,913	* 10,194
営業利益	191	2,161
営業外収益		
受取利息	12	10
受取配当金	5	7
団体定期配当金	112	142
投資有価証券割当益	55	—
負ののれん償却額	79	79
その他	82	66
営業外収益合計	348	305
営業外費用		
支払利息	646	591
寄付金	—	150
その他	90	123
営業外費用合計	736	865
経常利益又は経常損失(△)	△196	1,601
特別利益		
貸倒引当金戻入額	39	—
固定資産売却益	—	37
保険差益	—	11
退店補償金受入益	27	—
その他	2	—
特別利益合計	69	48
特別損失		
固定資産除却損	7	—
貸倒引当金繰入額	—	158
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	2,025	—
その他	27	52
特別損失合計	2,061	210
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△2,187	1,439
法人税、住民税及び事業税	630	662
法人税等調整額	△945	552
法人税等合計	△314	1,215
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△1,873	223
少数株主利益	12	3
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,885	220

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△1,873	223
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△28	△17
為替換算調整勘定	△98	△10
その他の包括利益合計	△127	△28
四半期包括利益	△2,000	195
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△2,012	192
少数株主に係る四半期包括利益	12	3

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△2,187	1,439
減価償却費	3,437	3,787
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	2,025	—
のれん償却額及び負ののれん償却額	434	428
賞与引当金の増減額(△は減少)	32	△63
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△44	148
株主優待引当金の増減額(△は減少)	△74	△50
受取利息及び受取配当金	△18	△17
支払利息	646	591
投資有価証券割当益	△55	—
固定資産売却損益(△は益)	—	△37
固定資産除却損	7	—
保険差益	—	△11
退店補償金受入益	△27	—
売上債権の増減額(△は増加)	477	△628
たな卸資産の増減額(△は増加)	19	△179
未収入金の増減額(△は増加)	933	175
仕入債務の増減額(△は減少)	920	375
未払消費税等の増減額(△は減少)	△447	98
未払金の増減額(△は減少)	△974	△480
未払費用の増減額(△は減少)	△271	63
預り金の増減額(△は減少)	47	166
その他	175	288
小計	5,056	6,093
利息及び配当金の受取額	18	16
利息の支払額	△659	△576
保険金の受取額	—	13
退店補償金の受取額	82	—
法人税等の支払額	△1,679	△689
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,818	4,858

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△484	△184
定期預金及び拘束性預金の払戻による収入	483	184
有形固定資産の取得による支出	△1,289	△437
有形固定資産の売却による収入	1,056	253
無形固定資産の取得による支出	△356	△533
投資有価証券の売却による収入	53	—
子会社株式の取得による支出	△30	△22
敷金及び保証金の差入による支出	△302	△476
敷金及び保証金の回収による収入	68	116
その他	△18	△57
投資活動によるキャッシュ・フロー	△819	△1,157
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	8,253	411
短期借入金の返済による支出	△6,270	△238
リース債務の返済による支出	△2,610	△1,877
長期借入れによる収入	725	6,432
長期借入金の返済による支出	△5,589	△6,213
社債の発行による収入	—	1,954
社債の償還による支出	△262	△262
配当金の支払額	△611	△581
自己株式の取得による支出	△650	△466
その他	△9	△7
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,024	△849
現金及び現金同等物に係る換算差額	△7	△8
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△5,032	2,842
現金及び現金同等物の期首残高	13,291	8,338
現金及び現金同等物の四半期末残高	* 8,258	* 11,181

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
(持分法適用の範囲の重要な変更) 株式会社シスカは破産手続を開始したため、第1四半期連結会計期間より持分法適用の範囲から除外しております。

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

連結子会社であるシダックス・コミュニティー(株)が有する店舗建物に係る入居保証金の返還請求権の一部をミレニウム・アセット・ファンディング・コーポレーション東京支店、グローバルファクタリング(株)及び芙蓉総合リース(株)に譲渡いたしました。当該譲渡契約において売主であるシダックス・コミュニティー(株)は、譲渡契約日及び譲渡代金受取日現在において、買主に上記のとおり譲渡した返還請求権に関連する一定の事項について表明及び保証を行っており、これに違反する事実が判明した場合には損害賠償その他譲渡契約に定める金銭支払の責任を負うこととなります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
損害賠償その他譲渡契約に定める金銭支払の責任の上限額	2,125百万円	1,767百万円

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
給料	3,396百万円	3,596百万円
賞与引当金繰入額	554百万円	549百万円
役員賞与引当金繰入額	60百万円	50百万円
役員退職慰労引当金繰入額	17百万円	10百万円
貸倒引当金繰入額	0百万円	△6百万円
ポイント引当金繰入額	-	26百万円
株主優待引当金繰入額	-	21百万円
のれん償却額	513百万円	507百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
現金及び預金勘定	8,490百万円	11,413百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	△232百万円	△232百万円
現金及び現金同等物	8,258百万円	11,181百万円

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年5月20日 取締役会	普通株式	613	15	平成22年3月31日	平成22年6月14日	利益剰余金

II 当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年5月25日 取締役会	普通株式	583	15	平成23年3月31日	平成23年6月14日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント								その他 (注)	合計
	エスロジ ックス事 業	コントラ クトフー ドサービ ス事業	メディカ ルフード サービス 事業	レストラ ンカラオ ケ事業	スペシャ リティー レストラ ン事業	コンビニ エンス中 食事業	トータル アウトソ ーシング 事業	計		
売上高										
外部顧客に対する 売上高	4,188	16,382	19,005	23,213	8,913	6,199	18,112	96,015	1,553	97,568
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	23,267	253	3	49	31	—	69	23,675	808	24,484
計	27,456	16,635	19,009	23,263	8,945	6,199	18,181	119,691	2,362	122,053
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	2,228	876	486	△1,540	△383	209	1,039	2,917	72	2,989

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、観光施設内物販飲食事業及びスポーツ施設附帯宿泊事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,917
「その他」の区分利益	72
セグメント間取引消去	△34
全社費用(注)	△2,763
四半期連結損益計算書の営業利益	191

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務、人事、財務、経理、情報システム部門等の管理部門及び企業イメージ広告に要した費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第2四半期連結累計期間において、固定資産に係る重要な減損損失の認識はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第2四半期連結累計期間において、のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

当第2四半期連結累計期間において、重要な負ののれん発生益の認識はありません。

II 当第2四半期連結累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント								その他 (注)	合計
	エスロジ ックス事 業	コントラ クトフー ドサービ ス事業	メディカ ルフード サービス 事業	レストラ ンカラオ ケ事業	スペシャ リティー レストラ ン事業	コンビニ エンス中 食事業	トータル アウトソ ーシング 事業	計		
売上高										
外部顧客に対する 売上高	568	15,425	18,671	23,161	8,674	6,997	17,964	91,463	1,534	92,998
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	22,528	329	7	23	32	7	74	23,003	864	23,867
計	23,097	15,754	18,678	23,185	8,707	7,004	18,039	114,466	2,398	116,865
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	2,187	919	681	684	△338	195	899	5,229	137	5,367

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、観光施設内物販飲食事業及びスポーツ施設附帯宿泊事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	5,229
「その他」の区分利益	137
セグメント間取引消去	△156
全社費用(注)	△3,049
四半期連結損益計算書の営業利益	2,161

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務、人事、財務、経理、情報システム部門等の管理部門及び企業イメージ広告に要した費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第2四半期連結累計期間において、固定資産に係る重要な減損損失の認識はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第2四半期連結累計期間において、のれんのご金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

当第2四半期連結累計期間において、重要な負ののれん発生益の認識はありません。

(企業結合等関係)

当第2四半期連結会計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)

共通支配下の取引等

当社は平成23年9月に連結子会社でありますシダックスアイ株式会社の株式を追加取得しており、当該取得は共通支配下の取引等に該当しますが、重要性が乏しいため記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額 (△)	△47円74銭	5円73銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額 (△) (百万円)	△1,885	220
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額 (△) (百万円)	△1,885	220
普通株式の期中平均株式数 (株)	39,489,809	38,489,491

(注) 1 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月11日

シダックス株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 豊島 忠夫 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山本 守 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 河合 宏幸 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているシダックス株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、シダックス株式会社及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。